

女装アイドル強制TS 触手拘束メイキングドラマ



R
is
18

ダンナ



私、レオナ・ウエスト。カナダ(パナグじゃないよ)のパンクーバーから私立パプリカ学園に転校してきた帰国子女の中學一年生。

いつも一緒に双子の姉が今日は草むしりの罰を受けているので放課後はそのままお家に帰ろうと思ってたけど、ヤギに乗った北条そふい先輩から一緒にプリパラ行こうって誘われちゃった。

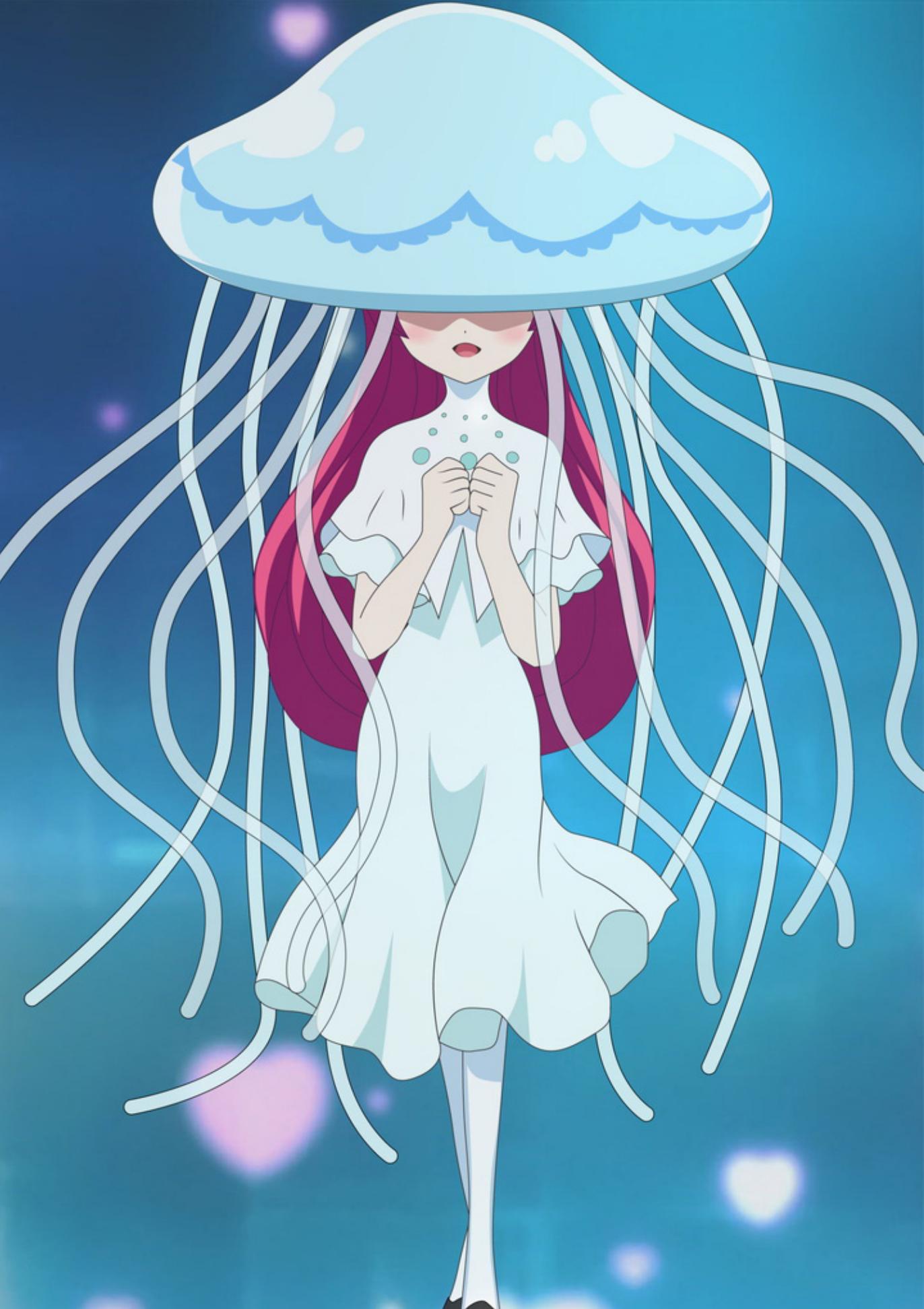
プリパラはプリチケがあればみ~んなアイドルになれちゃう異次元のアイドルテーマパーク空間。





ゲートをくぐってプリパラチェンジした直後、
いつもと異なる体の違和感に戸惑い
バランスを崩して座り込んでしまう。
ふしゅ～ってなって足腰に力が入らない。

急に体調が悪くなつたみたいなのでそふいさんに
助けを求めようとしたけど周囲に姿が見当たらない。
ついさっきまで一緒だったのに一体どこへ？
そんな時、名状しがたい謎コードの不審者が
音もなく忍び寄ってきたのだった……。



……怪しい。絶対に怪しい。不安になってくる。
あのクラゲコーデはどこのブランドなんだろう？

クラゲの人はそばにやってくると
「貧血かしら。静かな場所で休むといいわ」と
言って、親切に触手を差し伸べてくれた。
ひんやりしてプルプルな未知の感触だった。
どうやって触手を動かしてるんだろう。不思議。

思ったよりずっとパワフルな触手に捕まりながら
人気のない場所に案内される。

「ここで横になって。地面は私のお布団だから」

気のせいいか、クラゲの人の息遣いがハアハアと
荒くなっている。私を運んで疲れたのかも？

「あなたの衣装、なんだか胸元が窮屈そうね」

言われてみれば胸が圧迫されてる感じがする。
いつもはそんなことないのに。どうしてだろう。



「服を緩めてあげるからいい子にしてなさい」
クラゲの人がそう言うと、何本もの触手が
ベルトやリボンめがけて伸びてきた。

触手の動きが怖かったので拒否しようとして
「わ、私、男なんで、自分でやります！」
と勢いで言ってしまったが……。

「本当かしら？これは確かめる必要があるわね」
全く動搖した素振りを見せることなく、
強引に服を脱がそうとしてくるのだった。
「やめてください、人を呼びます！」

「無駄よ。ここならいくら叫んでも誰も来ないわ」
見た目通り危ない人だった。早く逃げなきゃ！



触手が素早い動きで
腕に巻き付いてくる。
プリパスも取り上げられ
めが兄いに助けを
求めることもできない。







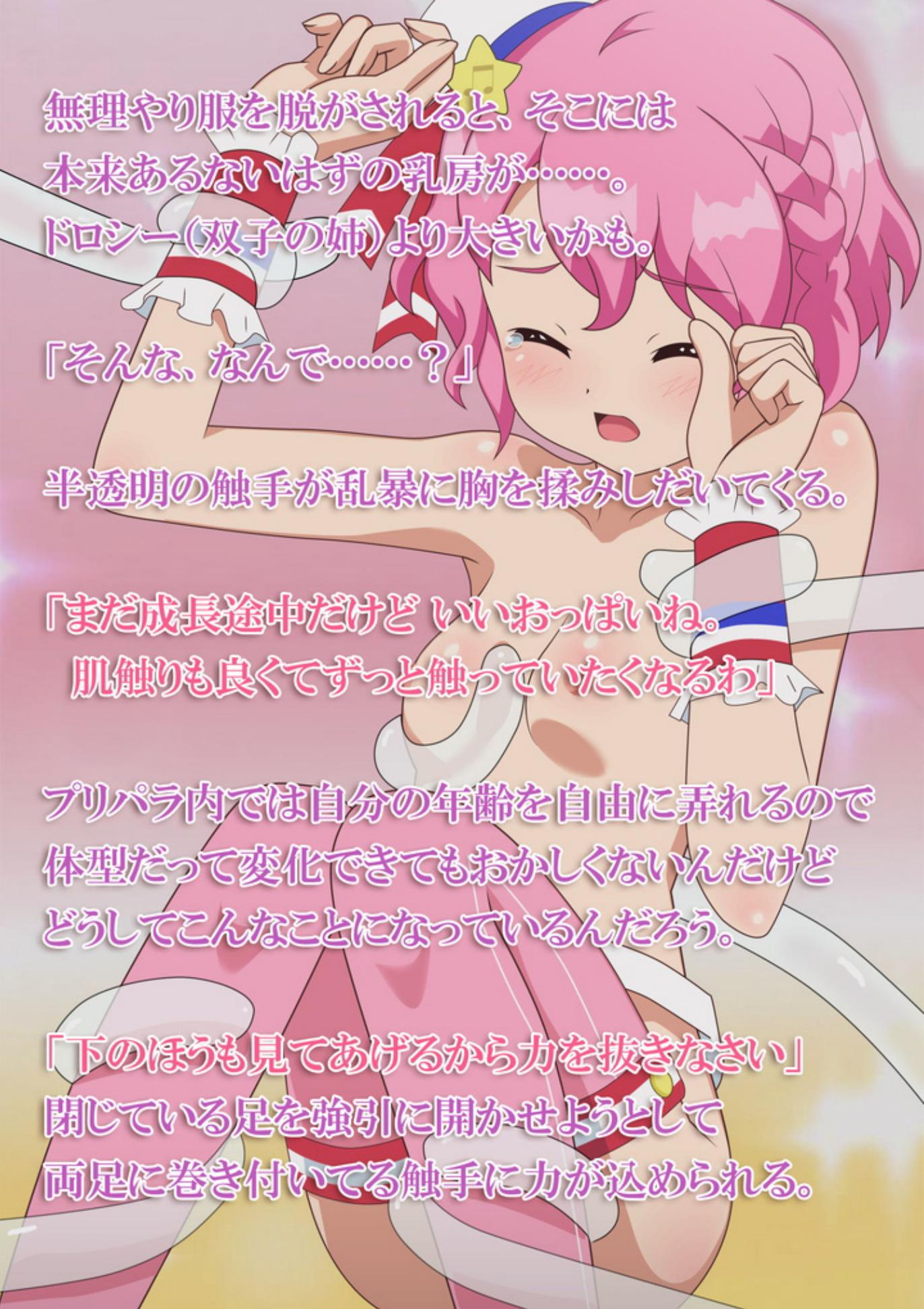
触手がスカートの中を
遠慮なくまさぐってくる。

「あら？ あなた下着を付けてないの？
ライブ中、何も履いてなかつたなんて
可愛い顔してとんだド変態ね」

めが姉えが「男性用の下着はありません」といって頑なに用意して貰えなかつただけで好きでそうしていたわけじゃない。

「その恥知らずな衝動、解放してあげるわ」

抵抗しようとしたけど体に力が入らない。
一枚。また一枚と服が剥ぎ取られていく。



無理やり服を脱がされると、そこには
本来あるないはずの乳房が.....
ドロシー(双子の姉)より大きいかも。

「そんな、なんで.....?」

半透明の触手が乱暴に胸を揉みしだいてくる。

「まだ成長途中だけどいいおっぱいね。
肌触りも良くてずっと触っていたくなるわ」

プリパラ内では自分の年齢を自由に弄れるので
体型だって変化できてもおかしくないんだけど
どうしてこんなことになっているんだろう。

「下のほうも見てあげるから力を抜きなさい」
閉じている足を強引に開かせようとして
両足に巻き付いてる触手に力が込められる。





あ…

がばっ



じ
…





下半身に付いてるはずのモノがない……。
体型の変化どころじゃなく完全に女の子だ。
自分からはよく見えないのでドロシーと比べて
どんな風に違うのかはわからないけど。

「男だなんてデタラメじゃない。嘘ばっかり」

触手が割れ目をなぞって動くたびに
未知の感覚で体が痺れそうになる。

「う、嘘じゃない！ 私、本当は男なのに……」
「実際の男がどんなものか、見せてあげるわ」



くいっ

ま
る
い
ん

両手でドレスの裾をつまんでめぐり上げると
明らかに不釣り合いなジュエルマイクが
サイリウムタクトしている。

「！？ 私のジュエルマイク返して！」

それを見た瞬間、反射的に叫んでいた。
うっすら毛が生え始めてきたのを風呂場で
ドロシーに指摘されたのはつい最近のことだ。
凝視しないとわかりにくいけど陰毛の色が
自分と同じだから間違いない。

「人をジュエルマイク泥棒呼ばわりするような
悪い子にお仕置きが必要ね」